

2023 年度以降のオンラインによる講座開催について

2023 年 12 月 31 日

星空案内人資格認定制度の実施団体の皆様

日頃より、星空案内人(星のソムリエ)制度にご尽力いただき感謝申し上げます。

1. はじめに：ウィズコロナへの移行期の対応について

これまでは、COVID-19 の感染拡大への緊急的な対応(感染対策と部分的なオンライン講座の導入など)をしながら星空案内人養成を行なって参りました。しかし今後は、感染対応をしながらも以前のような対面での星空案内活動へ、つまり、ウィズコロナ時代への移行を進める時期に入りつつあると運営機構では考えております(感染対応しながら経済活動を戻していくのと同じように)¹。

2. 本来の星空案内の養成の様子を思い出すと

従来に対面での講座であれば「講座終了後の受講生の笑顔にスタッフ一同頑張った甲斐を感じ」、講座がうまくいってれば「アンケートをとるまでもなく満足度していただいているなと感じ」ることができました。また、「受講生同士、受講生と実施団体スタッフとの交流」も自発的に行われました。星空案内の場ではハッピー 2 乗(学んでハッピー・伝えてハッピー)が感じられました。このようにして、実施団体の皆さんのミッションの遂行を後押ししたいという制度本来の役割が果たせておりました。早く、この状態に戻したいと皆が願うところです。実際、講座終了後の受講生の笑顔に触れることがオンラインではできず実施者も充実感を得られないのは寂しくなにかしたいです。

3. これまでの経過

COVID-19 の感染拡大時期には、講座を開講しない事による損失よりも、オンラインでも良いので星空案内人養成を続ける意義があると判断いたしました。それで、オンライン実施

¹ 運営機構は感染症の専門家ではありませんが、宇宙物理という科学を扱う団体として最低限の科学リテラシーは持ち合わせていると思います。その範囲で考えると、今後、複数回のワクチン接種や実際に罹患した方が増えて免疫を持つものが増え、治療薬も徐々に開発・使用ができる状況になると思われます。最終的には季節性のインフルエンザレベルの罹患率と死亡率になっていく過程が移行期であると思われます。ちなみにここ一年(2021.12.25-2022.12.26)のコロナ感染による死亡数は約 36321 人で、インフルエンザの死亡が多かった 2005 年 1818 人の 20 倍です(厚生労働省の統計より)。まだまだ状況を注視していく必要があります。

の場合は、メーリングリスト(cluster)や毎月のコロナ対応情報交換会(Zoom 開催)で実施計画を示して意見交換しながら実施することにしました(以下、「臨時的方法」と呼びます。)。情報交換会では、ノウハウを磨きながら、オンラインの講座の質も向上してきました。その成果は2点ありました。一つは、(1)オンライン講座であってもできるだけ双方向性を取り入れるためのノウハウが蓄積されたこと、もう一つは、(2)本制度の目的のためにはやはり対面による双方向的な講座が必要であることが自覚できたこと、です。

4. ウィズコロナへの移行期の星空案内人養成の方法について

以上の状況を踏まえて、2023 年度より本来の実施ルール、「講座は対面で行い、オンラインやオンデマンドによる受講は講座出席とはみなさない」という方法に戻していこうと思います。とはいうものの急な感染急拡大もあり得ます。そのような止むを得ない特別な状況の場合は、これまで蓄積したオンライン開講のノウハウを取り入れた実施をお願いすることにします。具体的には、事前にオンライン開講の申請を出していただき運営機構の許諾を受けた場合にのみオンライン講座の実施を可能とします。過渡期ではありますので、2023 年度を試行期間として「臨時的方法」と申請して行う方法を併用し、問題がないときは 2024 年度から完全実施とします。なお、具体的には別紙の「感染症対策の星空案内人養成講座オンライン実施ガイドライン」に従って計画し、申請をしてください。

星空案内人資格認定制度運営機構
機構長 柴田 晋平